



レインボーネット Rainbow Net

れいんぼー Topics

「相談支援事業所・クチェカ」が開設!

NPO法人 [クチェカ]
地域活動支援センター [クルカ]



NPO法人クチェカ
下閉伊郡岩泉町岩泉字森の越3-1
TEL0194-32-3671

謹賀新年

会員及び関係機関の皆様、新年あけましておめでとうございます。旧年中はいろいろとお世話になりました。本年も変わらぬご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

東日本大震災被災者支援、障がい者の地域生活支援として、平成28年4月より岩泉町で活動を行っていた団体「NPO法人クチェカ」が、平成29年10月1日より、相談支援事業所・クチェカを立ち上げました。

一足先に平成28年8月に同法人「地域活動支援センター・クルカ」が、東日本大震災で被災された方々を含めた地域の方々の集う場所として設置され、お茶のみや創作活動などの活動をしてきました。また障がいのある方を対象としてレクリエーションや料理教室などの活動を行い、これまで町内には少なかった交流の場として、地域での生活を支える場所の一つになっています。

「相談支援事業所・クチェカ」は、障がいのある方々が、暮らしの中での困りごとや不安なことを相談できる場所として、また障がい福祉サービスの利用に必要なサービス等利用計画の作成を行う事業所として、新たな社会資源となりました。

「クチェカ」はスワヒリ語で『微笑む』『笑う』という意味…。岩泉町にここから笑顔が広がりますように!

(文責・五十嵐)

目次 CONTENTS

●れいんぼーTopics	1	●はあとふるズームイン「地活センター」	8~9
●年頭にあって	2	●Essay・虹の架け橋	10
●ザ・自立支援協議会	3~5	●はあとふるVoice「当事者の声」	11
●宮古圏域・ふくし現場からのレポート	4~5	●なんでもKEIJIBAN、編集後記	12

注)法律や制度に基づく固有名詞及び引用文は「障害」と表記し、それ以外は「障がい」と表記しています。

あなたの笑顔を下さい

特定非営利活動法人 宮古圏域障がい者福祉推進ネット 会長 刈屋 裕之



最後の「平成」という元号が印刷された平成三十年のカレンダーを壁に掲げてその表紙を剥ぎ取り、気持ちを新たにしていることと思います。

はじめに、関係各位・地域の多くの皆様には、私たち「宮古圏域障がい者福祉推進ネット」の日々の目的、活動、事業に対し、深い理解と篤いご支援を頂いておりますことに、心から感謝申し上げます。

おかげさまで昨年中、私たちレインボーネットの職員の皆は、いつも笑顔を絶やすことなく、柔らかかにたくさんの当事者、ご家族の方々に接してくれることができました。また一方で多くの研修会やシンポジウム等の事



業を実施し、そして自らの資質向上のための研鑽を積み重ねることができました。

さらには、レインボーネットがNPO法人格を取得して十周年を迎えるに到りました。

ありがとうございます。

さて話は変わりますが、どんなに大きな大河ドラマでも、ほんの小さな物語にでもそこには

必ず主人公がいます。

そして彼ら彼女らは、障がいがあっても無くっても一人ひとりが皆その人生のカッコイヒーロー・ヒロインでなければなりません。

そこに居合わせた私たちも、一方では人生の主役でありながら、彼ら彼女らの舞台の観客として、ときに拍手を贈り、ときに歓声を挙げ、ときに一緒に泣いて涙し、ときに無言で見守りながら寄り添うことができたならどんなに素敵なことでしょうか。どんなに嬉しいことでしょうか。

どうぞ皆さんにお願いいたします。心ならずも障がいを抱えてしまった人たちの、優しいそして笑顔の観客になって下さい。

もう一つお願いがあります。

私たちの周りには、自分の思いとは関わらずに苦しみや悲しみと同居しながら日々を歩んでいる人たちがいること、そんな人たちを支え、寄り添うためにレインボーネットがあることを、たくさんの人たちへ伝えて下さい。

この一年が、笑顔いっぱいでありますように、心から願っております。



ザ・自立支援協議会

これまでの活動を振り返って

実務担当者会議

(事務局 宮古圏域障がい者福祉推進ネット)
担当 事務局次長・五十嵐純子

高橋理奈氏

(山田町長寿福祉課 地域福祉係長)

今年度の実務担当者会議では、「第5期障がい福祉計画・第1期障がい児福祉計画の策定について」、「障害者差別解消支援地域協議会の設置について」、「地域生活支援拠点等の整備について」等について、議題として取り上げ協議を進めて参りました。



実務担当者会議

山田町では平成30年度以降の町の障がい福祉施策の方針を定める福祉計画の策定のため、9月にニーズ調査を実施し、11月に計画策定委員会を開催し様々なご意見をいただいたところであります。ニーズ調査結果を見ると、障がいのある人の多くが「理解促進が必要」と回答しています。「障がいのある人とそうでない人が交流する機会を増やすことが必要」との回答も多くあがっています。策定委員会では、「世の中には、個性が違っている人があるのだと、幼少期から目にし触れ合うことで、対応の仕方を学び、障がいの理解も深まるのではないかと。それが共生社会への第一歩なのではないか」との意見もありました。

障がいのある人に対する差別的解消や、権利擁護の推進については、「障害者差別解消法」や「障害者虐待防止法」等で定められています。全国的に、共生社会の実現に向けた取り組みが求められており、障がいのある人への理解が浸透するよう、積極的な情報発信に努めるとともに、障がいの有無にかかわらず交流の場づくりを促進する必要があります。

私は13年ぶりに福祉担当課に異動となり、今年度から委員として当会

議に参加しておりますが、今後も圏域の関係者や事業者の皆様からご指導をいただきながら、圏域の課題解決に向けた議論を重ね、障がい福祉施策の充実を図って参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

権利擁護部会

(事務局 宮古圏域障がい者福祉推進ネット)
担当 相談支援専門員・瀬浪仁志

今西淳浩氏

(法テラス宮古法律事務所 弁護士)

本年度の権利擁護部会は、昨年度に実施した実態調査から見えてきた「被支援者の金銭管理」「支援にあたっての対応」「被支援者に対する権利侵害への対応」などの課題を中心に、権利侵害事例の検討会や権利擁護セミナーの開催などを実施することで、障がい者の権利擁護とその普及・啓発活動を行ってまいりました。

権利侵害事例の検討会では、どのように対応しているのかわからないと支援者が悩んでいる事例に対し、メンバーが様々な知恵を出し合っており、事例の解決に向けた助言等を行いました。支援者が悩んでいる事例であることから分かるとおり、すべて



権利擁護部会

の事例で満足できる助言等が出たわけではありませんが、より良い解決方法を助言等ができるように今後も取り組んで参ります。また、宮古市民文化会館で開催した権利擁護セミナーでは、経済的虐待、財産相続、金銭管理のテーマについて、「参加者に分かりやすく」を目標に、寸劇でそれぞれのテーマに応じた事例を紹介し、その後事例の解説を行うという形式を取り入れました。参加者の皆様からは「分かりやすかった」「理解が出来た」「来年も実施して欲しい」などのお声を頂きました。当部会が目的としている障がい者の権利擁護、その普及・啓発に寄与できたのではないかと思います。

また、昨年度に実施した実態調査からは、事業所ごとに「権利侵害」に対する感度・認識に差があることがわかりました。これについては、これまで実施している啓発活動のほか、調査結果を各事業者にフィードバックするなどの取り組みを行う予定にしております。

今後も、宮古圏域の市町村、事業所と連携を図り、障がい者の権利擁護に取り組んで参りますので、よろしくお願いたします。

生活支援部会

(事務局 宮古圏域障がい者福祉推進ネット)
担当 相談支援専門員・上野一彦

金沢昌彦氏

(株式会社かがやきライフ 専務取締役兼生活相談員)

本年度の生活支援部会では、四つの大きな柱を中心に取り組んでまい



生活支援部会

りました。

一つ目は、毎年7月から12月にかけて圏域市町村で開催する「地域懇談会」です。例年、地域のホールなどを会場とし、当事者の生活ニーズの把握や、社会資源の開発・改善につながる情報交換を実施してまいりましたが、今年度は、山田町・田野畑村で障がい者を直接支えて頂いている事業所を会場とし、実際に生活・就労の現場を見学させて頂いたとき、そこで当事者の方や支援する職員の方から生の声を頂戴し、課題と展望の発掘、地域住民と事業所の相互理解が生まれた有意義な懇談会だったと感じました。また、一昨年に台風で大きな被害を受けた岩泉町での懇談会においては、県の災害派遣福祉チーム・災害ボランティア・町内施設の対応と、それぞれの関係者の視点から、災害対応の実践報告、圏域での防災・減災に繋がる貴重な講演がありました。

二つ目は昨年11月に開催された「スキルアップセミナー」です。本年度は、高次脳機能障がいと戦い、そして共に歩みながら生活されている当事者の方を中心としたパネルディスカッションを行い、見えない障がいとも呼ばれる高次脳機能障がいの理解促進を目的に開催しました。

三つ目は、今年2月に開催予定の「チャレンジドフォーラム」です。本年度は宮古圏域型農福連携の今後に

ついてを考へ、将来的には農家への障がい者雇用を促進し、更に六次産業化へとつながる大変良いテーマとなっております。

四つ目は、「事例検討会」を随時開催しており、各事業所で処遇困難なケースを部会内で情報交換し課題やニーズを検討しております。

生活支援部会としては、変わりゆく社会の中で障がい者の方が今後も地域で安心して生活できるよう、サービスの充実に努めてまいりたいと考えております。

精神保健部会

(事務局 宮古圏域障がい者福祉推進ネット)
担当 相談支援専門員・高屋敷大助

平野千代野氏

(自立生活支援センターウイリー サービス管理責任者)

精神保健部会では、主に地域移行に関するところについて協議、検討をしています。地域移行の形として、精神科病院から施設やグループホームへの移行、施設からグループホームやアパート等への単身生活等様々な形があります。

私が所属しているウイリーは、県内でも少ない宿泊型自立訓練事業を行っており、主に精神科病院から地域での生活を目指す方が一定期間、地域で生活するための練習をする事業所として位置づけられています。受け入れについては精神保健部会内で対象

者の選定や支援の経過確認等を行い、支援経過から個別ニーズ、地域のニーズを拾い上げ、それらを多職種で共有し、さらに地域の連携を深めています。

これまでの部会活動を通じ、宮古圏域の地域移行は医療機関内だけの支援にとどまらず、医療機関と福祉の連携が形作られました。地域へ送り出す側、受け入れる側の意見を吸収し、連携をより図りやすくするために現在、精神科病院退院シート(仮)の作成に取り組み、運用や管理方法についてワーキンググループを組織しています。

また、8月には「地域生活支援セミナー」を開催。山田優先生をお迎えし、地域移行の背景や仕組み、支援のあり方について講演をいただきました。地域移行に携わる方々は、相談支援事業所であったり、入所施設であったり、立場が異なりますがそれぞれの機能を果たしていくことが大切で、地域生活に向けた支援を展開していくことを再考する機会となりました。

これからも安心して地域移行ができるしくみや支援、地域移行したから完結ではなく、その後の支援もときれぬよう支援の輪を広げていけるよう皆さんと携わっていきたいと思います。



精神保健部会

発達支援部会

(事務局 宮古圏域障がい者福祉推進ネット)
担当 相談支援専門員・粟津優

伊藤隆幸氏

(宮古市立宮古小学校 教諭)

発達支援部会では、奇数月第2水曜日に合同庁舎で定例会が持たれ、福祉・教育・就労等の情報共有や事例検討を行いながら連携を深めています。「発達障がい」への理解を広めるための活動としては、『宮古圏域発達支援セミナー』の開催があります。全国で活躍する著名な先生方をお呼びし、その実践を地元で聞くすばらしい機会となっております。今年度は本田秀夫(信州大学医学部子ども診療部部長)先生の予定でしたが、台風で中止になってしまい残念でありました。

支援に携わる関係者の交流及びスキルアップのための活動としては、『発達障がい学習会』の開催があります。昨年度に続き、自閉症の方々やその家族と関わり、神奈川県を中心にご活躍をされている笹一誠先生をお迎えし、学びを深めています。発達障がいを持つ本人や家族・関係者の支援としては、『なないろ茶話会』や外部講師による『育ちの相談会』の実施があります。相談会は、川村みや子(みちのく療育園)先生をお迎えし3回行っています。

支援にはこれで絶対よいという方法はなく、個々に応じた方法があり、



発達支援部会

それも時とともに変わっていくということにやっと気づいてきたこの頃です。迷いながら進む道の中に一筋の光を追い求め、これからも学び続けていきたいと思えます。今後とも皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

現場からのレポート

Report 1

宮古圏域障がい者自立支援協議会

研修会からの学び



宮古圏域障がい者福祉推進ネット

相談支援専門員 高屋敷 大助

「地域で連携して支援する」とても心強いフレーズであり、同時に、実践現場では、これほど険しい言葉はないという現実を突きつけられることもありませう。「本人に寄り添う」や「意思決定支援」なども同じではないでしょうか。それでも、私たちは、つながら合うことを求め、協働を模索し続けます。

10月3日(火)平成29年度宮古圏域障がい者自立支援協議会研修会が開催されました。講師に長野県自立支援協議会会長の福岡寿さんをお招きし「地域で相談支援が必要とされるために」相談支援の本質とは」をテーマに、相談支援や地域づくりはもちろんのこと、地域自立支援協議会のあり方について包括的にお話いただきました。

印象に残るのは、今後の設置が望まれる地域生活支援拠点について「自分のところの事業所や施設がよければいいというスタンスでは絶対にこうま〜く〜かよ〜」

という至言をいただきました。これは普遍性のある示唆ではないでしょうか。基幹型相談支援センターである、レインボウネットの果たす役割の大きさを再認識することができました。

「地域で連携して支援する」というストーリーは、絶望の中では生まれませぬ。絶望はつないだ手を振りほどきませぬ。連携は蜃気楼のように霞んでしまおうでしょう。陳腐な言い方ですが、希望が連携を醸成すると信じます。小手先のシステム論ではなく、希望のある対話を繰り返していく過程の中で生まれてくるもの、それが地域連携ではないでしょうか。

今後も宮古圏域障がい者自立支援協議会では、共生社会を目指し、つながり合うことを求め、協働を模索し続けたいと思います。ご参加いただいた皆さまありがとうございました。



講演する福岡寿氏



宮古圏域・ふくし

Report2

「障がい児・者相談支援連絡会議」 今年度の活動を振り返って



ハックのサポートセンター

相談支援専門員 村田 幸雄

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

さて、「障がい児・者相談支援連絡会議」では、毎年度4回程度のペースで会議を実施しております。

いわゆる計画相談が始まり、右往左往しながらとにかく「作る」ことに追われ、数をこなしてきた感が否めません。これは、宮古圏域に限ったことではなく、県内や全国的な傾向と聞いております。昨年度あたりから、作成数もほぼ達成されつつあるようです。それに伴って、計画書の「中味(質)」が問われ始めてきました。「質の高い計画書」とはどんなものなのか、そのために相談支援専門員に求められる技術は何なのか。当会議でも、昨年度から「計画相談の質」や「技術」、「支援事業所の個別支援計画との連動」などについて情報交換や議論を重ねてきました。結論には至っていませんが、今年度も

引き続き検討を重ねています。

今年度、新しい試みとして、沿岸部にある相談支援事業所と合同会議を行い、各事業所の状況や悩み、解決のためのヒントなど共有することができ、有意義な会議だったと思います。なにより、私自身、あらためて連携することの大事さを実感できました。参加者からは、来年度も実施してほしいとの声が多く継続実施する予定です。

その人の「希望する暮らし」の実現のために、相談支援専門員に求められるもの、なすべきことはなにかを会議の中でさらに議論できればと思います。今後とも、皆様のご指導・ご協力をよろしくお願いたします。
年度途中ではありますが、今年度の振り返りにしたいと思います。



ち かつ 「地活センター」



に、自立の促進、生活の改善、身体機能の維持向上、社会との交流の促進を目的に、創作的な活動、SST(社会生活技能訓練)・との連携強化のための調整、ボランティアの育成、障がいに対する理解促進を図るための普及啓発事業を実施しています。

はあとふるフェスタ 2017の内容

◆お祭り広場

- ・お祭り縁日
射的・すくい遊び
千本釣り ほか
- ・作ってあそぼう!
竹とんぼ・缶ポックリ
- ・あおぞらギャラリー
活動作品・当事者作品

◆いきいきフェア

- ・障がい福祉サービス事業所

◆NPO法人 結人

- ・リサイクル品販売

◆NPO法人 みやっこベース

- ・スカットボール・輪投げ

◆ステージコーナー

- ・秋の空き缶積み上げ大会
- ・音楽いろいろあそび

お子さんのペアが優勝しました。
今回もたくさんの方々の交流が見られ、良い一日となりました。ご協力くださった皆様、ありがとうございました。

今 年度も10月8日(日)にはあとふるフェスタ2017を開催しました。テーマに「であい・ふれあい・ささえあい」を掲げ、障がいの有無に関わらず交流を楽しみましたが、中でも小さなお子さんの参加が多く、賑やかな一日となりました。
今回お祭り広場で人気を集めたのが射的コーナー! 商品に狙いを定め、当たると大喜びで声を上げ盛り上がりました。ステージコーナーでは昨年好評だった「秋の空き缶積み上げ大会」を一回開催。ペアを組み、より高く積み上げたチームが勝利というルールで、チーム毎の作戦の違いに驚かされ、また不運にも風に倒され計測不能のチームもあり一喜一憂、二回目に行われた大会では大人も参加した中、

はあとふるフェスタ2017



人気だった射的コーナー



ステージコーナーの「音楽いろいろあそび」、講師の山崎尚子氏にお越しいただきました。音楽に合わせて楽器を使ったり、イントロクイズをしたり、最後には宮古市民歌を合唱、ベルも鳴らして盛り上げました。



秋の空き缶積み上げ大会



作ってあそぼう



はあとふるズームイン!!

「地域活動支援センターみやこ」では、障がい者等(身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、障がい児及び難病等)を対象ピアカウンセリング等の活動、各種サークル活動を行っています。また、専門の職員を配置し、医療・福祉および地域の社会基盤



吸って～、吐いて～



少し難しいポーズ!

『を繰り返していくと、徐々に体がポカポカと温まり、心地よくなりました。体を動かしたあとは横になり瞑想、静かな時間を過ごし、皆さん満足そうでした。』

昨

年度までお菓子づくりとして活動していましたが、今年度は趣味サークルとし、お菓子づくりの他カラオケや外部講師を招いて活動しています。

11月14日には栗石から徳田真理子氏をお招きし、ヨガに取り組みました。ゆっくりと静かに体を動かし、普段はあまり意識しない呼吸に意識を向け、『吸って～、吐いて～』

趣味サークル

ヨガ

今年度の活動予定
☆1月・3月
お菓子づくり
☆2月
ハンド
マッサージ
(変更になる場合があります)

ヨガに参加した方の感想
◆始めは体の動きと呼吸が合わず大変でしたが、慣れてくると合わせることができうれしかったです。瞑想の時間が一番安らぎ、貴重な体験ができました。



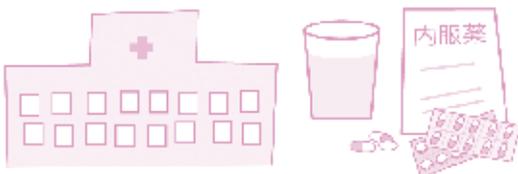
講師の徳田真理子氏



※今年度開催の学習会は、1月・2月を予定しています。



学習会の様子



「病院内部のことが知れて良かった」とても勉強になった」「病気を治して早く働きたい」等の感想が聞かれたほか、病院への感謝の言葉もあり、有意義な時間となりました。

10月31日には宮古山口病院を訪ね、機能や仕組みの説明を受けながら見学をしました。

毎

年精神保健福祉に関わる学習会を実施していますが、今年度は年4回、宮古山口病院精神科認定看護師小成祐介氏をお招きし、精神疾患に関わる様々な症状や困りごと、薬についての説明をしていただいています。

精神保健福祉学習会

エッセイ・虹の架け橋

施設利用者と地域住民の交流を深めて

NPO法人あおば会 副理事長 大洞 敦子



私は自分の健康のために、三年前から川井グラウンド・ゴルフ愛好会（G・G）でプレイしています。メンバーは17人（男性6、女性11）73～83歳まで平均76歳の老人パワー全開の愛好会です。このG・Gにあおば工房利用者が土、日に2～3名参加し、一緒にプレイしております。

そのきっかけは二年前、レインボーネット企画の行事で「あおば利用者とG・G愛好会との交流会」でした。土曜日の午前中、始めてプレイするあおばの利用者に会員は親切に手を取り教えてくれました。また道具一式も貸してくれ、楽しい交流会でした。

このゴルフは個人競技なので、慣れてくるうちにホールインワンする人もいて、盛り上がりました。これがかっかけで、「またきてね！」と声掛けをする。と休日には3人の利用者がくるようになり、ルールもすっかり覚え、会員も一緒に楽しんでいます。

そのうちに「M君はなんの病気かな？普通の人と変わらないようだけど…」と会員から良く聞かれるようになりました。私はこれらの質問に対し、特に精神障がい者は特別な人ではなく、治療することで落ち着き、みんなと同じように働き、休日には宮古に買い物にでかけたり、健常者と変わらない生活を希望し、職員はその希望する生活を支援していることなど話しています。あおば工房周辺に住んでいる



会員が多いので、直接働いているところは見ているが、プレイを通して交流をすることで、なお理解を深めて頂いています。

冬になり、ゴルフができなくなると今度は卓球です。愛好会は週に2回、あおば工房に隣接する地域センターでやります。土曜日の午後に実施することで、グループホーム利用者も一緒にプレイできます。彼らの中には卓球の上手な人もいて、愛好会員が相手になって指導してもらっています。スポーツ交流はみんなを笑顔にしてくれます。

はあとある Voice (当事者の声)



私は、ウイリー(自立生活支援センター)のある職員から紅白歌合戦を描いてみたらどうか?と言われてこの絵を描きました。気を付けた点は、特徴をとらえるようにハッキリと目立つように描いたところです。

絵を描く事を通して

伊藤 順子さん



絵を描くようになってみて変わった事は、前は塗り絵をしていたけど、こうして模造紙に絵を描くようになってから、模造紙に描くのが面白くて楽しくなりました。また、描くネタが出来たら模造紙に描いてみたいと思っています。また、(出品をして)大賞を取れなくても良いから、入選してみんなに親しめるような絵を描きたいと思っています。でも、やっぱり、出来たら大賞を取ってみたいです!

インタビューコーナー



相木 健さん
—就労移行支援事業所「すきっぷ」で、一般就労を目指し頑張っていた相木さん。今年5月に、無事あおぞらプラザに就職できました。—

○あおぞらプラザではどんな仕事をしていますか?
・洗車と洗車場の掃除が主な仕事です。多いときには1日5台くらい洗車することがあります。5~8月はトライアル雇用でしたが、9月から正式に採用が決まりました。頑張った結果だと思います!車が好きなので、車関係の仕事に就けて嬉しいです。

○仕事の中で楽しいこと、大変なことはありますか?
・知っている人が乗っている車に、良く似た車が来る場合があります。その人のことを思い出しながら洗車するのが楽しいです。車の下はしゃがんで水をかけたり洗ったりしないといけないので、その時は少し大変だなと感じ

ますが、社員の人達が優しいので楽しく仕事ができます。これからも続けていきたいです!

- 将来の夢は何ですか?
・車と同じく電車や列車も好きです!金沢に行って北陸新幹線を見たいなと思っています。
- すきっぷの卒業生や今すきっぷに通っている方達へ伝えたいことはありますか?
・すきっぷの卒業生へ:就職先はいかがですか?なかなか会えませんが、これからも好きなことや得意なことを生かして頑張ってください!
すきっぷに通っている皆さんへ:いろいろな実習や基礎訓練など、一生懸命取り組んで就職に繋がられるように頑張ってください!

※相木さん、好きなことを仕事にできて良かったですね。これからも得意分野を生かして頑張ってください。インタビューにご協力いただき、ありがとうございました。



なんでも KEIJIBAN

高次脳機能障がい・家族教室

- 日時 1月23日(火) 10時～12時
- 会場 フラットピアみやこ
- 内容 「家庭で出来るリハビリ」
講師 宮古第一病院
言語聴覚士 大手賢一氏
- 対象者 保健、医療、福祉、行政関係、当事者、関心のある方等



第1回家族教室～音楽療法～

精神保健福祉 ボランティア交流会

精神保健福祉ボランティアの活動に携わっている方や関係機関等を対象に、これまでの活動の振り返りや、今後に向けてより一層充実した活動

をめざせるよう学んだり、ボランティア同士の交流を目的として実施いたします。

- 日時 2月20日(金) 11時～14時
- 会場 山口公民館
- 内容 調理、会食及び情報交換
- 定員 20名程度
- 対象者 精神保健福祉ボランティアの活動に携わっている方、保健師、関係機関等

「宮古圏域型農福連携について考える」

チャレンジドフォーラムとは、障がい者が地域で快適に働き・暮らすための啓発活動として毎年実施してきたものです。今回は、農業分野での障がい者就労の意義と今後の可能性、支援のあり方等について、支援者それぞれの立場から検証し課題解決に向けたヒントを得ることを目的として実施致します。

- 日時 2月7日(金) 13時～16時
- 会場 休暇村陸中宮古
2階リアスホール
- 内容 「宮古圏域型農福連携について考える」



講師
農林水産省農林水産政策研究所
企画広報室長
吉田 行郷 氏

講演 「はじめよう農福連携！～全国で広がる農業分野での障がい者就労～」

- 事例提供者 「右手江刺発！農福連携で勝負」
奥州市江刺区 (株)菅野農園
代表取締役 菅野千秋氏
パナルディスプレイスカッション
- 「宮古圏域型農福連携の未来」
- 定員 80名
- 対象者 農業従事者、就労継続支援A・B型事業所、福祉関係者、行政、その他関心のある方

「フォーラム・研修会への参加・問い合わせ先
レインボーネット事務局
TEL0193・64・7878
FAX0193・77・3921

かい いん ぼ しゅう
会員募集

かいいん しゅるい ねんかいは
会員の種類と年会費について

個人	正会員	1,000円
	賛助会員	500円
団体	正会員	5,000円
	賛助会員	1,000円

NPO法人
レインボーネットの活動を
応援して下さる方を
募集しています。

編集後記

新年あけましておめでとう
ございます!! 皆さん、昨年
はどんな一年でしたか?
一年程前になりますが、花
巻市にある『るんびーが美術
館』に行く機会がありました。
そこには、知的な障がいや精
神の障がいがある方達の作品
が展示してあり、その感性の
豊かさや緻密さ、繊細さなど、
魅力溢れた其々の作品に感動
し、ほんわか暖かい気持ちに
なったのを憶えています。今
回、『はあとふるVoice』
でも伊藤さんの作品を紹介し
ていますが、是非、沢山の方
に見て頂けたら良いなと思っ
ています。

さて、今年は戌年です。戌
年には、草木が滅ぶという意
味があるようですが、これは
次に進む為の新しいステップ
とのこと。今年はレインボー
ネットも10周年と節目の年を
迎えます。気持ちも新たにス
テップアップして行けるよう
努力したいと思っています。
皆さん、今年もどうぞよろ
しくお願致します!!!
(緑川)

◆発行
NPO法人宮古圏域障がい者福祉
推進ネット(レインボーネット)
岩手県宮古市緑ヶ丘2番3号
はあとふるセンターみやこ
TEL0193・64・7878
FAX0193・77・3921
E-mail info@myako-rainbow.com
URL http://www.myako-rainbow.com/
◆発行責任者 会長 刈屋裕之
◆企画・編集
レインボーネット事務局